

複合領域科目1-81  
「良心学—グローバル時代における良心の探究」  
第1回

# 導 入

1

## シラバスから

本講義は、同志社の建学の理念、とりわけ「良心」を中心とした教育理念の歴史的背景を理解した上で、「良心」が現代世界の中で、どのような応用可能性を持ち、また、それをどのように実践できるのかを学際的に探求していきます。また本講義は、創立150周年を視野に入れた同志社が、良心教育の現代的使命を明確にしていくための「良心学」入門となります。

2

良心教育が同志社における教育の根幹をなしていることは言うまでもありませんが、新島襄が「良心」をどのような意味で使ったのかについては、十分な理解がなされているとは言えません。一般的には、良心碑に刻まれた「良心の全身に充満したる丈夫の起り来らん事を」や、「同志社大学設立の旨意」に登場する「良心を手腕に運用するの人物」という表現くらいしか知られていません。しかし、新島はかなり初期の頃からconscienceという言葉を使っており、「良心」という言葉によって、具体的に何を考えていたのかを整理する必要があります。

3

そのような学問的作業を踏まえた上で、新島の理念を現代に生かすとするならば、「良心」は現代世界が抱えている諸課題をどのように照らし出すだろうか、という点にまで、本講義では踏み込んでいきたいと考えています。以上の点をまとめるなら、本講義は次の三つの柱から構成されていると言えます。

- (1) 同志社教育にとって「良心」とは何か（基礎的・歴史的探求）
- (2) 「良心」は現代社会にどのように適用可能か（応用的・理論的探求）
- (3) 「良心」は自分自身の日常生活や社会生活の中でどう活かされるべきか（実践的探求）

4

世界の困難な現実と付き合わせる形で、旧来の「良心」理解を鍛え直し、「良心」のグローバルかつローカルな応用可能性を探求する意欲的な講義を展開する予定です。そのために、この「良心学」の講義では、下記のように複数の学問分野を横断・連結する学際的なアプローチを取り、「良心」の学問的可能性に多角的に迫っていきます。

- ・神学・宗教学（小原克博・神学部 教授）
- ・法学（深谷 格・司法研究科 教授）
- ・ビジネス（北 寿郎・ビジネス研究科 教授）
- ・エコロジー経済（和田喜彦・経済学部 教授）

5

1 (4/12)	導入（担当者全員）
2 (4/19)	新島襄と良心——その生涯をたどる（小原）
3 (4/26)	同志社と良心教育——未来を展望するための原点（小原）
4 (5/10)	良心学の展開——グローバル時代の良心の探求（小原）
5 (5/17)	総括・評価（1）（小原）
6 (5/24)	法と良心①（深谷）
7 (5/31)	法と良心②（深谷）
8 (6/7)	総括・評価（2）（深谷）
9 (6/14)	ビジネスと良心①（北）
10 (6/21)	ビジネスと良心②（北）
11 (6/28)	総括・評価（3）（北）
12 (7/5)	公害と環境問題における「良心」①（和田）
13 (7/12)	公害と環境問題における「良心」②（和田）
14 (7/19)	総括・評価（4）（和田）
15 (7/26)	総合討議（担当者全員）

6

## 成績評価基準

- ・平常点(出席) 20%
  - ・毎回の小レポート提出を出席点として評価します。
- ・中間試験 80%（各回20%×4回=80%）
  - ・中間試験では、各回の講義内容を理解しているかどうかを確かめるための基本的な問題を出します。

7

## e-class の利用

- ・今後の連絡は、e-classを通じて行います。定期的にチェックするようにして下さい。
- ・授業用資料は、e-classにアップします。

8

# テキスト

1,650円



総説	良心学とは何か	小原克博
第1章	1 思想・信条における良心	中村信博
第2章	キリスト教と良心	内藤正典
第3章	イスラームと良心	ライナ・シウルツァ
第4章	哲学と良心	深谷 格
第5章	法と良心	伊藤彌彦
第6章	新島襄と良心	
第7章	2 社会生活における良心	
第8章	社会福祉と良心	木原活信
第9章	経済学と良心	八木 匡
第10章	環境問題と良心	和田喜彦
第11章	ビジネスと良心	北 寿郎
第12章	スポーツと良心	下楠昌哉
第13章	3 科学の時代における良心	
第14章	科学技術と良心	林田 明
第15章	医療と良心	櫻井芳雄
	脳科学と良心	貫名信行
	心理学と良心	武藤 崇
	人工知能と良心	廣安知之

## 良心学研究センター (2015年4月1日設立)

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

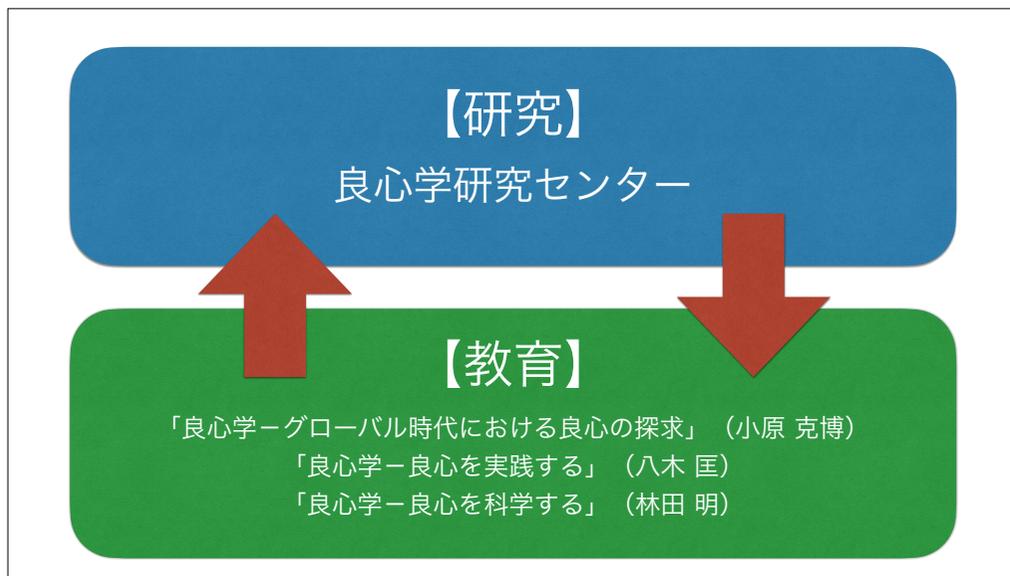


## 良心を世界に

「一国の良心とも謂うべき人々を養成せんと欲す。」 (同志社大学設立の旨意)

## 良心を覚醒させる知の連携と知の実践

「良心の全身に充満したる丈夫の起り来たらん事を」 (良心碑)



13



14